

## 2. 地域連携医通信 “取り組んだコロナ診療 = 当院の3年間=”

医療社団法人 みやびの会 あきる野総合クリニック 院長 小林 雅史  
〒197-0802 あきる野市草花 1439-9  
tel:042-518-2088



あきる野総合クリニックの小林です。令和5年3月3日で開院12年となりました。開院8日目に東日本大震災が発生し、不安の中でのスタートでした。

以来、あきる野の地で小児科、内科を中心に小児内分泌科、小児泌尿器科、整形外科、脳神経外科、脳神経内科や婦人科を標榜し、非常勤を含め約20名の医師と40名のスタッフで日々診療しております。

今回、ここ3年間、我々が取り組んできたコロナ診療を本紙面をお借りしてお知らせさせていただきます。

### 【第1波】（令和2年2月～令和2年5月）無力期

年末にTVで見ていた中国の状況が現実的なものと思えない中、3月頃から患者数が半減するどころか小児科は3割くらいまで落ち込みました。廃業も頭をよぎりましたが、国や都のコロナ感染対策融資を受けられたことが、診療を継続する支えとなりました。

### 【第2波】（令和2年6月～令和2年10月）準備期

9月に八王子でコロナ陽性者のための宿泊療養事業に参加させていただきました。多くは軽症者で、実際にPPEを着て診療する場面はありませんでしたが、事前のPPE装着脱講習会に参加できたことが後のコロナ診療に役立ちました。

この時期、発熱外来は公的医療機関を中心に行っていました。8月頃に西多摩保健所様からのご通知で、当クリニックのようなところでも、行政検査への手上げが可能と知りました。また、東京都に診療・検査医療機関として登録も行いました。手続き上のことは概ねクリアしましたが、実際、何がどのようにできるのか手探り状態でした。

まず、院内、外注問わずPCRや抗原検査に関して、どのようなものがあり、何が最適なのか、医療スタッフの能力や手技、検査結果が出るまでの時間、費用面などから多角的に検討しました。外注PCRは結果が出るまで数時間から数日かかることや検体処理や運搬で難しい面があること、迅速抗原検査は鼻咽頭採取でも偽陰性がPCRと比較して多いことなどを知りました。

また、院内検査としてPCRを行うことは、手技や精度管理の面から困難であるように思えました。PCRが優れているのはわかっていたのですが、やや感度は落ちるものの13分以内で判定できる迅速性と操作が簡便な等温核酸増幅法を、院内で実施する核酸検査として使用することに決めました。

もともと鼻咽頭採取は普段から行っており慣れております。医療スタッフが必要以上に怖がらないように、どうしたら検査に協力してくれるのかなど考えつつ、当クリニックに最適な採取方法を思案しました。結論的には、エアーテック®設置や簡易陰圧室、PPEなどをきちんと備え、トレーニングし、職員への感染リスクをできる限り減らすことしかないと考えました。そのうえで、唾液ではなく、慣れた鼻咽頭採取を選択しました。

9月下旬に当クリニック最初のコロナ陽性者は基礎疾患のない20代の患者さんでした。



2020.8.7

東京都医師会主催 PPE 講習会

### 【第3波】(令和2年11月～令和3年2月)本格対応期

初めての冬で発熱患者用の仮設プレハブ設置が患者数に追いつかない状態でした。プレハブは計6棟まで増やしましたが、常に後手後手で苦しい時期が続きました。欲しいと思ってオーダーしても納品まで3か月ぐらいかかりました。

11月までは外注PCRに依存していましたが、12月から納品されたID NOW®による院内検査体制が整いました。しかし、ワクチン、治療薬はなく、都知事がまさしくおっしゃっていた素手で戦っている状況でした。

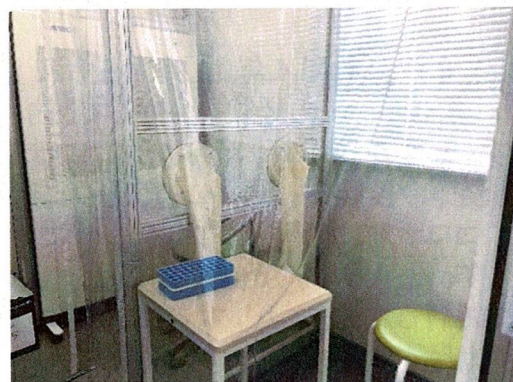


仮設プレハブ PPE 装着室とプレハブ診察室 2

### 【第4波】(令和3年2月～令和3年6月)α株期

ID NOW®を計5台まで増やし、簡易陰圧室等の設備、十分な量のPPEとその適切な手順、装着室や脱着エリアなどのゾーニングや時間的分離でコロナに対するできる限りの体制はほぼ整いました。ここで予期せず、もうすぐID NOW®試薬が尽きますという報告を受けました。著しい患者増加、パンデミックによる試薬の米国からの出荷制限と船便の遅延がその理由でした。

5月連休前に試薬不足に陥り、外注PCRを併用しました。連休中の外注での診療はやはり困難でした。アルフレッサ株式会社の協力のおかげで、5日夜10時に荷揚げされた試薬が松戸から納品され、6日以降なんとか診療を継続することができました。その後も試薬確保に全力で取り組みました。



仮設プレハブ検査室内のエアータック装置

### 【第5波】(令和3年7月～令和3年9月)δ株期

基礎疾患のない30～50歳代のCOVID-19肺炎4症例を経験しました。SATが低い陽性者も自宅待機になるような異常事態でした。この時、初めてコロナは怖いと思いました。

CT撮影では、PPEを着て放射線技師が頑張ってくれました。自宅療養患者のためにパルスオキシメーター200個購入し、その場で陽性者に渡すことを開始しました。また、医療従事者の感染防止のため、電話やオンライン診療を積極的に併用しました。厳しい状況、時期でしたが、地域の方へのコロナワクチン接種も開始しました。

δ株対応と新しいワクチンを同時にやらなければならず、開業して一番つらく、忙しい夏になりました。我々はそれまで小児の公費ワクチンを、あきる野市のお子さんの約4割に行っている実績がありました。開院して10年を経て経験と備え、そして志の高い職員が多かったので、なんとか乗り越えられたのではないかと今思います。



仮設プレハブ診察室内の簡易陰圧装置

### 【第6波】(令和4年1月から令和4年3月)ο株期

12月からFAXでの発生届提出を全例HER-SYSとしました。できるかどうか不安でしたが、保健所業務の負担軽減に少しでもお役に立てるように努力しました。また、東京都の健康観察事業を1月から開始しました。

看護師が毎日HER-SYSを確認して架電し、最大1日200人ぐらい健康観察を実施していました。コロナ検査や治療等の業務をこなしつつ、終わりが見えない日々葛藤しながら、医師、看護師が連携、協力を図ることで最後まで継続することができました。

この時、「毎日電話をくれたので安心して療養期間を過ごすことができました」、「体調が悪くなった時もすぐにクリニックでみてもらえて心強かったです」と感謝の言葉を多くいただきました。

ラゲブリオ®の処方許可され、連携薬局のみどり調剤薬局に納品されたため投薬を開始しました。日曜、祝日問わず、遅い時は夜 10 時近くまで、八王子や瑞穂まで配達をしていただきました。毎日 500 件以上の電話問い合わせがあり、発熱専用番号を急ぎ 4 つ作りました。自動音声案内も第 5 波後に導入していましたが、それでもすべての電話を受けきれませんでした。これがないと多くの事務職員が離職していたと思います。

この波で医師をはじめ 8 人の職員に感染がありました。幸いにも、多くがワクチンを接種しており、重症化には至らずに済みました。労災と国の新型コロナウイルス医療従事者支援制度のおかげで、感染した職員に手当や保険金を支給することができました。

### 【第 7 波】(令和 4 年 7 月から令和 4 年 9 月)小児感染期

パキロビットパック®の処方許可されました。検査・ワクチン・治療薬と戦える体制が確立し、クリニック全体が前向きになった時期でもありました。

とにかく小児の感染が多くなりました。暑い中、PPE を着て小児科医や検査技師が奮闘してくれました。

### 【第 8 波】(令和 4 年 12 月から令和 5 年 2 月)5 類へ

第 3～7 波の経験を生かして、内科はオンライン、小児科は対面中心で総仕上げ的な診療を継続中です。5 月 8 日以降、どのようなコロナ診療をするべきなのかわかりません。ただ、この闘いで培った経験を、今後起こりうるパンデミックに活用したいと思っています。

コロナ前に新型インフルエンザに対してサージカルマスク 3 万枚を院内備蓄していました。災害対策として、電子カルテが止まり、職員出勤数が 5 割以下で、電話診療し、FAX で処方箋を薬局に流す図上訓練も行っていました。本当に必要になるとは想像していませんでしたが、いずれにしても備えておくことの大切さを学びました。

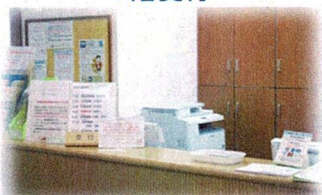
### 【青梅市立総合病院の皆様への感謝】

第 8 波だけでも、30 歳代の AST800 で肝炎疑いのコロナ陽性者や採取後に鼻出血が止まらず、処置をお願いした 40 歳代の抗凝固薬内服中の陽性者、ワクチン未接種の 30 歳代肥満で、 $\circ$  株と推定される COVID-19 肺炎の 3 例は、他院で断られてしまいましたが、貴院に快く助けていただきました。

これからも貴院との病診連携がより緊密になるよう努力してまいります。ここまで貴重なお時間をいただき、お読みいただきました皆様に深謝いたします。

\* 各波の期間については、日本における新型コロナウイルス感染症の流行波ごとの性別・年齢的特徴の疫学的検討 IASR Vol.43 p273-275:2022 年 12 月号、第 105 回新型コロナウイルス感染症対策アドバザリーボード資料 3-8-③、第 112 回新型コロナウイルス感染症対策アドバザリーボード資料資料 3-8 を参照した。

1 階受付



(“あきる野総合クリニック”  
ホームページより)

#### 2023 年 3 月までの当クリニックの実績

- ・核酸検査実施件数 22,591 件
- ・陽性者数 5,428 人
- ・ラゲブリオ®投与人数 104 人
- ・パキロビットパック®投与人数 309 人
- ・ゾコーバ®投与人数 28 人
- ・健康観察実施者数 3,187 人
- ・12,988 回のコロナワクチン接種を実施

1 階待合室

